

沖縄の旬な情報と音楽をお届けするラジオ番組のフリーペーパー 首都圏を中心に10,000部を配布中!

paper RADIO

# ハイサイ! ウチナータイム!

ご自由にお取り下さい

# Free

# No.11 2017 20 11 月

FM おだわら  
http://fm-odawara.com/

ハイサイ!  
ウチナータイム!

毎週水曜 19:00~20:00 再放送 毎週土曜 18:00~19:00

# RYUCHIM BAND



### 琉球チムドン楽団

2003年結成。劇団と楽団の融合「はちやめあやに陽気に笑って踊ろう!」を合言葉にチンドン屋風練り歩き演奏を駆使し全国各地で爆笑公演。メジャーデビュー、某家電量販店のキャラクター全国CMデビュー、日本国議案審査大使活動と国内外で大活躍したがメンバーの相次ぐ専脱退により2008年活動休止。

2012年再結成。元ディックティンクのベルさぶちを歌姫に迎え演奏メンバーを本格jazzメンで囲め「民間音楽親善大使」活動として始めたNew Yorkライブツアー、中国ライブツアー、台湾ライブツアーは各地で大絶賛され数回に及び再招聘される。和太鼓や琉球古典舞踏を加えた幻想的で妖艶で情熱溢れるパフォーマンスは必見必聴! 感動のパフォーマンスをぜひご堪能下さい。

~ライブツアー 2017 冬の陣~

- 2017.11.23&24  
ライブ in 東京 日本ブルースアレイ JAPAN)
- 2017.12.3  
ライブ in 沖縄 (沖縄 MOD'S)
- お問い合わせ: 098-911-3650

## 琉球チムドン楽団



【第288回】スタジオゲスト  
11月8日(水) 再放送11日(土)



首都圏の沖縄雑誌  
ハブコネクション  
www.habu-connection.jp

沖縄食品・三線・オリオンビール  
泡盛は500種類以上!

うれしかったのしい沖縄ワールドショップ! 045-582-8186

沖縄ショップ ぶがらす家 神奈川県横浜市鶴岡区 原寺5-1-2

ぶがらす家 045-582-8186 http://www.bugasara.com

配布協力

ぶがらす家さん  
のお取引のある  
店舗に当紙が配  
布されています

詳細は

FM おだわら で検索!

ラジオの聞き方

スマートフォンで聴く場合、なんとアプリは不要!!  
パソコンと同じ URL をスマホからアクセスするだけで聴けます。

http://www.jcbasimul.com/?radio=fm おだわら



「かきませる」  
「かき合わせる」  
「混ぜ合わせる」  
から来ている  
そうです。

「ちゃんぶる」  
「混ぜ合わせる」  
の混ぜ合わせは  
具材の原型を残す。  
「かちやーすん」は  
渾然一体となり  
原型がなくなるまで  
溶け合う感じ。

「カッチョー」  
「オレと混ぜり合  
さるゾー」  
「いやだ  
いやだ」

カッチョー  
カチャシーで  
モテ男子を  
目指そう！

「変なテーマだな」と思われるかもしれ  
ないが、昔から昆布は本土でも沖繩でも  
めでたいものとされてお料理や縁起物に  
されてきた。琉球王の前で歌われてきた  
「かぎやで風」節の御正月バージョンにも  
昆布が登場する。

新玉の年に炭と昆布飾て心から姿若  
くなゆき  
【読み方】あらたまめとうしにたんとう  
くぶかじやていくくるからしがたわかく  
なゆき

「タンとよるコブ」という縁起の良い言  
葉の語呂合わせだけれど、昆布の持つ旨  
味、水溶性食物繊維などが健康維持には  
大事だということを「よるコブ」のは自  
然だ。

ところで読者の皆さんはクープイリ  
チー（昆布の油炒め）という料理をご存  
知だろうか。沖繩のご家庭や居酒屋など  
でも定番で、細切りした昆布や豚肉や野菜  
と煮込んだ料理だ。琉球の宮廷料理でも  
あった。

しかし昆布は暖かい沖繩では全く採れ  
ない。ほとんどの昆布は寒い北海道を産  
地とする。それなのに琉球王朝時代から  
昆布が多く消費されてきた。その秘密が  
「富山の葉売り」と「密貿易」にある。

鍵を握るのは1609年に琉球に侵攻  
した薩摩藩。薩摩藩は中国と交易を望む  
江戸幕府の承認を取り付け、琉球に武力  
で攻め入った。そして奄美を分離支配し  
た。奄美で作られたのがサトウキビだ。  
サトウキビから作る黒砂糖は薩摩藩が安  
く取り上げ、大坂（大阪）で独占的に大  
量に売った。一方で当時、富山の葉売り  
は全国に昆布を持って行き、各藩で葉売  
りの許可を得ていた。薩摩藩は黒砂糖か  
ら得た金でその昆布を買い付けいった

薩摩藩は昆布を琉球国が中国と交易す  
る進貢船に忍ばせ、中国の港で密かに売  
りまくる。密貿易だ。中国では昆布は薬  
として売れた。そして中国で仕入れた漢  
方薬を富山の葉売りに売る。また葉売  
りから昆布を手に入れると中国へ。これ



で得た資金は琉球ではなく薩摩藩が吸収  
し、莫大な藩の借金の返済と幕末の倒幕  
に向けた軍資金へと化けていったのだっ  
た。

こうした昆布の流れを「昆布ロード」  
と呼び、当然中継とされた琉球にも昆布  
が広がっていった。琉球王朝は中国から  
の使者を歓待するときの料理にも昆布を  
使った。それがクープイリチーと呼ばれ  
て家庭にも広がっていったというわけ  
だ。

クープイリチーは昆布を丸ごと煮て織  
維質も食べる。豚肉料理は身体を酸性に  
傾けやすすが昆布がアルカリ性に引き戻  
す。沖繩のおでんなどにも足テイピチと  
昆布は仲良く入っている。理にかなった  
料理なのだ。

「琉球支配」という苦難を逆手に取っ  
た琉球の人々の知恵に学びたいと思う。  
ちょっと昆布だけに固い話題だったか  
な？柔らかに煮て美味しく味わってほし  
い(笑)

たるー (関洋)

宮崎県生まれ。広島在住。琉球民謡協会教師。  
ネットでおなじみの  
「たるーの島唄」の著者。  
島唄の歌と解説をして10年！  
広島で三線教室や「O2C」を主宰。

また、ヤールーが笑っている。

大城密

第2回 アンガマ

おばーがエアコン嫌いなせいで、こんな暑い夏の夜で  
も僕は壊れかけの扇風機の風だけで過さなければな  
らなかつた。

扇風機には首振り機能がついているが、隣の家に住  
んでいる比嘉のおじーと一緒に、本来の動きとは違っ  
た微妙な揺れ方をするので使うことはない。

僕は寝転んで扇風機の上に両足を掛ける。そうす  
ると、風で太ももの裏に滲んだ汗が冷やされ、暑さが少  
しマシになる。古ぼけた扇風機は必死で僕の足の重さ  
に耐えているように見えたけど、耐えているのは僕も  
同じなので、我慢してもらうしかない。

寝る前に読むマンガはもう何度も読み返して飽きて  
しまった。こんなに眠れないなら、他のマンガも持っ  
てくれば良かったと思っただけ、もう遅かった。  
夏休みで学校はないし、母さんはまだ仕事をしてい  
るだろうと思うと、別に無理に眠らなくてもいいかと  
も考えた。

ただ何もかもない夜は、頭の中がやたらと動いて胸が苦  
しくなる。

頭の上の方にある窓を見ると、網戸の向こうに夜空  
に浮かぶ重く黒い雲が見えた。

夜のうちに雨が降ってくれば、少しは涼しくなっ  
ていいのにと思うけど、最後にテレビで見た天気予報  
では、今夜雨は降らないらしい。僕は何のためにその  
雲が空に浮かんでいるのか意味が分からなかつた。  
ただ、本当に何のためにそこにあるのか意味が分か  
らないのは、その黒い雲じゃない。

眠れない夜に限って居間の鴨居の上にある小壁か  
ら、僕をじっと見つめる四つの瞳。

—— アンガマの二つの面だ。  
寒い時期は襖を閉じているので、僕が寝る部屋から  
アンガマの面は目に付かないが、夏はそうはいかない。  
僕はあのアンガマの面が不気味で怖くて大嫌いだっ  
た。

薄らと笑顔を浮かべた、薄茶色のアンガマの面は、  
斜め上の方から僕だけを見ている気がする。  
アンガマとは、僕のお父さんの生まれた石垣島で伝  
わる風習だ。



お盆のときに、祖先を象徴すると言われる、ウシユ  
マイという老人とシミという老婆の面を着けた人が、  
ファーマーという花笠をかぶり、顔を布で覆った精霊  
とともに、あちこちの家を巡る。子孫たちはウシユマ  
イとシミにあの世のことや、昔のことを聞き、ウシユ  
マイとシミもそれに答える。

二年前、石垣で夏休みの大半を過ごしたときに僕は  
その行事を初めて見た。僕は三線の音色と太鼓の音  
そして鳥肌が立つ真声の群れが怖くて、父さんの手を  
ずっと握っていた。

僕が「何のためにしているの？」と聞くと、「これ  
は亡くなった祖先を供養するためにある行事なんだ」  
と、今は僕の前からいなくなってしまう父さんから  
教わった。

お父さんの方のおじーが、うちのおばーに贈ったも  
のらしいけど、お父さんがいなくなつた今でもそのア

ンガマの面だけがここに意味が、僕にはどうして  
も分からなかつた。

「こんな物は送り返すか捨てたら」と、僕がおばーに  
伝えると、おばーは「あんたがやればいいさー。おばー  
には、そんなことできない」と言われた。

それからというもの、アンガマの面は以前にも増し  
て、僕の前で主張してくるような気がしている。  
一度目が合うと、僕は怖いはずのアンガマから目が  
離せなくなる。暗がり立体的に浮かび上がったアン  
ガマの面が、徐々に僕の方へ近づいている気がするか  
らだ。

「あれ？」  
僕は部屋の中を見渡した。  
どこからか、あの三線と太鼓の音が聞こえてきた。  
立ち上がり窓の外を見る。しかし今は夜中。外には  
誰もいない。比嘉のおじーの家の庭にあるパイアの  
木の葉が風に揺れているだけだつた。  
そこで僕は気付く。音は僕の頭の中から響いていた。



RPCエンタメ通信 vol.8  
RPC=琉球パフォーマーズコネクション

酒処 色珠 (いろみ)  
営業時間18時~24時  
那覇市松山1-7-1  
松山ガールズビル  
098(9027)4223

このお店は知る人ぞ知る「小菅直人」  
元選手が現役引退後にオーナーとなり開  
店しました。  
現役時代は数度のリーグ優勝やオール  
スターMVP受賞などスター選手として  
活躍し、今はこのお店で接客をしてい  
ります。

そう！小菅君と直接交流できるお店！  
ファンにはたまらないですよ！  
そして、このお店のコンセプトがまた  
良い！小菅君は新潟出身で、沖繩でキャ  
リアを終えました。

「お世話になった沖繩の人々に地元新潟  
の美味しいお酒や料理を楽しんでほしい」  
という思いが詰まったお店なんです。  
新潟の日本酒も多数用意され、新潟で  
も入手が難しい日本酒もあるとか。  
沖繩でこんなにも多くの日本酒が飲め  
るお店もなかなか珍しいと思いますので、  
沖繩に来られた際にはぜひ、ご来店くだ  
さい☆

店内のフोटスポットに化している新潟  
の文字と絵は繙書家SOYAMAX  
が描いたものですので、ご来店された時  
はぜひ写真を撮りまくってくださいね！

ちなみに、かなりの人気店で週末は込  
み合うことが多いです。ご予約され  
ているならサイトでも紹介されています  
と思いますので、「色珠 那覇」で検索  
お願いします。

それでは、次回年内最後の記事をお楽  
しみに☆

気付けばもう11月！  
アツーという間には過ぎますね。  
そんなアツーという間のスピードで私達  
は死に向かっ生きてきているんです。後  
悔しい人生を送るためにもう1日を  
大切にやりたいことを形にして生きてい  
きたいと思う今日この頃。

皆さんの今年の目標はクリア出来てい  
ますか？皆さまお馴染みのJJです。

さあ、今回で8回目となりました  
RPCエンタメ通信！沖繩の様々なエン  
ターテインメントを紹介する企画として連  
載がスタートしましたが、最近はおっぱ  
ら沖繩の飲み屋を紹介する企画として  
いきますね。笑

ですが、ご安心ください。私の持つ豊  
富なネタの引き出しから、今回もシッカ  
リと飲み屋を紹介させて頂きます。笑

いや、飲み屋しかネタがないわけでは  
なく、年末の飲み会が増える時期に紹介  
したいお店がいっぱいあるので！  
今回もちょっと変わったお店をご紹介  
いたします！

今回は、プロバスケットボールチーム  
「琉球ゴールデンキングス」の元選手が  
オーナーとなりオープンしたお店！  
「酒処 色珠いろみ」をご紹介します！

僕は誘われるように居間へ足を踏み入れ、アンガマ  
の面が飾られている壁まで椅子を動かして、その上  
に立つた。

壁に打たれたネジに簡単に紐で吊された二つの面を  
震える手で取った。

自分の布団の上に戻り、なぜかそうしなきゃいけな  
い衝動に駆られ、ウシユマイの面を右手に持ち、シミ  
の面をゆつくりと自分の顔に被せた。

寝転がった細い三日目のようなシミの目。そこから、  
恐ろ恐ろのぞき込むと、見える範囲の部屋中に、花笠  
に布で顔を覆ったファーマーたちが座り、音色に合わ  
せて手拍子をしている。息が浅くなったかわりに回数  
が増えた。声が出せない。二年前に石垣島で見たアン  
ガマの儀式と同じ光景だつた。

ウシユマイの方を見る。

「あ」

ウシユマイの面の奥にも瞳があった。歯が一本  
しか生えていない口元の奥には見覚えのある唇と無精  
髭のぞいている。

—— 父さんだ。

父さんは何も言わずに、やつぱり僕だけを見つめて  
いる。

頭の中で響いている音は鳴りやまず、だんだんと激  
しさを増している。

一年前に教わった父さんの言葉を再び思い出す。僕  
は深く唾を飲み込み、僕にしか聞こえない声を出した。  
「父さん、今はどうしてるの？」  
「さみしくない？」  
「あれから母さんは少し痩せたよ」  
「それと——」

「僕のこと好きだった？」  
「どうして——どうして——……」

僕が質問をするたびに、ウシユマイの面からは涙が  
溢れ、掘られた皺の隙間に染みこんで消えていった。

大城密 おおしろひそか  
沖繩県那覇市出身。東京都在住。  
「スマホ小説大賞2014」にて、「私ア  
ブ」が角川ホラー文庫賞を受賞。  
第2回「ベリスタ大賞」にて  
「EGGMAN」が準大賞を受賞。  
2017年「下町アパートのふしぎ管  
理人」シリーズが角川文庫より刊行  
されている。

毎月沖繩をテーマとした3分で読める  
読み切り超短編小説シリーズを掲載！  
次回は「沖繩そば」。お楽しみに！

